

農業経済学特論Ⅰ (2単位)

担当者氏名 立岩 壽一

◆学習・教育目標

1. ガイダンスとして、大学院での研究の方法と技術の習得をめざす。
2. グローバルなスケールのなかで現代の農業・農村をいかに位置づけ、そして世界経済のなかで農業と食料をめぐる問題の発現携帯、課題を検討する。

取り扱う領域 (キーワードで記載)

学術書の読み方	論文の書き方	地域政策	農村の変容
日本の農業政策	経済のグローバル化	農業の基層構造	今日の農業問題

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	[講義のはじめに]	[講義のはじめに]	本講義の狙いは、受講する大学院生自身が農業経済学の理論と実証・分析の方法等を学ぶ過程で、自らの研究テーマと論文作成能力を発見し、彫琢しうるよう、教員と学生相互が協力しながら学習にあたる。 準備すべき事項は次の2点が重要である。 ①事前に指定されたテキスト・文献を読んでおくこと。 ②レジュメ担当者は、事前に準備を進めておくこと。
2	大学院における学術研	①学術書の読書方法、②アカデミック・ライティングの方法(論文の書き方)、③学術情報や知識の収集、など。	
3	究の方法と技術の取得		
4	(2~3週)。	[前学期・後学期] 国際的規模での食料の生産・消費体制、農業・食料をめぐる問題の現状を国際経済との関係で、解明する。	
5	前学期		
6	《パート:1》グローバ	またアメリカを事例として、農業や食料と国民経済との関係を解明する。	
7	ルなスケールのなかで、		
8	現代の農業・農村・農民	をいかに認識し研究するか(9~12週)。	
9	をいかに認識し研究す		
10	るか(9~12週)。		
11			
12			
13			
14			
15			

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

- * 『アメリカ農業を読む』 齊藤潔著 / 農林統計協会 (2009年)
- * 『アメリカ農業・政策史』 / 服部信治著 / 農林統計協会 (2010年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

リストファー・D・メット他、村田武 / 磯田宏監訳 『アメリカ新世代農協の挑戦』

◆ 評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

課題の対する論述テスト (50点) / 書評・レジュメ作成などに対する課題と評価 (50点)

◆その他受講上の注意事項

自主的に論文作成の課題に取り組み、自らの理論と実証に関する方法論を確立できるような態度で授業に臨むこと。